

清潔区域環境管理業務特記仕様書

この業務は、委託業務共通仕様書に基づくほか、この特記仕様書により実施するものとする。また、この仕様書は当該業務の概要を示すものであり、現場の状況に応じ、ここに記載されていない細部の事項についても、誠意をもって行うものとする。

1 業務対象場所

埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2

埼玉県立小児医療センター

2 業務範囲

別紙「作業基準表」に記載の区域

3 業務目的

免疫力が低下し感染に対する抵抗力が著しく低下した患者が在室する清潔区域において、細菌類に対する感染予防対策を目的とした清掃及び環境管理業務を行う。

4 業務内容

(1) 日常清掃

別紙「作業要領」、「作業基準表」、「病院清掃基準」により行う。

(2) 環境管理業務

別紙「作業基準表」により行い、各測定結果を書面で提出すること。

ア 空気清浄度測定

浮遊粒子数測定、浮遊細菌測定（一般細菌、真菌）、付着細菌測定（一般細菌、真菌）、風速測定、差圧測定

イ 空気環境測定

温度、湿度、気流、炭酸ガス、一酸化炭素、浮遊粉塵、ホルムアルデヒド

5 業務履行上の注意事項

(1) 医療法施行規則第9条の15に規定する基準に従い履行すること。

(2) 午前8：30までに手術室7室の清掃を終了しておくこと。

(3) 手術部門、中央材料室部門の清掃は、手術終了時刻にあわせて実施し、オンコールにも対応できる体制とすること。

(4) 病院清掃受託責任者講習修了者のうち、適格な業務責任者を選任し、甲の承認を受けること。

(5) 手術部門、中央材料部門の業務の履行に必要な人員を常時3名以上、無菌病棟含め病棟の業務の履行に必要な人員を常時7名以上確保すること。

(6) 無菌病棟及びバイオクリーンルームの実績がある人員を配置すること。

6 作業上の留意事項

- (1) 高度な小児専門病院である病院の特殊性を理解したうえで、作業にあたること。
- (2) 患者に対する安全を心がけ、安静療養を妨げないこと。診療行為の妨げとならないよう留意すること。
- (3) 清掃用具、清掃方法に起因する院内感染事故を防止するため、清掃用具の適切な管理及び清掃方法に努めること。
- (4) 室内清掃を行うときは、医療機器等にみだりに手を触れないこと。また、埃等を飛散させないように留意すること。
- (5) 作業服は常に清潔を保持すること。

7 業務責任者の責務

業務責任者は、病院清掃基準により行われていることを点検するとともに、必要な措置を講じなければならない。

8 清掃作業員の管理

- (1) 業務に従事させる作業員は、甲の指定する感染症抗体の抗体価検査を受検させ、検査結果が陽性である者しか、業務に従事させてはならない。当該検査結果の写しを甲に提出するものとし、これにかかる費用は乙の負担とする。
- (2) 前項において、甲の指定する感染症抗体の種類は、麻疹抗体、風疹抗体、水痘抗体、ムンプス抗体とする。甲が必要と認めるときは、別に抗体検査を求める場合がある。
- (3) 作業員を新たに採用し、業務に従事させる場合においては、1ヶ月の間、作業経験者と共に作業させること。
- (4) 病院清掃の特殊性に配慮し、作業員の教育及び身だしなみや対応における品位の保持を徹底するとともに、管理に万全を期するものとする。
- (5) 作業員の交代及び担当変更があった場合には、監督員に報告すると共に、前任者との引継ぎを十分に行えるようにしなければならない。
- (6) 作業員が感染性の疾病に罹患している場合は休職させ、業務に支障が生じぬよう、速やかに欠員を補充しなければならない。作業員の健康管理や衛生管理に十分留意すること。

9 臨機の措置

甲は、業務を実施する上で必要と認められる場合は、乙に対し業務対象場所及び内容見直し等の措置を求めることができる。

10 作業日誌

乙は、所定の様式による業務日誌を作成し、翌日（翌日が休日の場合はその翌日）監督員に提出するものとする。

11 負担区分等

- (1) 業務履行のために使用する電気、ガス、上下水道の使用料金は、甲の負担とする。

- (2) 前記のほか、用具、消耗品、被服等はすべて乙の負担とする。ただし、甲から指示があった場合は甲指示に従うこと。
- (3) 使用する消耗品（ガウン等、トイレットペーパー、ゴミ袋、各種洗剤、消毒液、手袋、マスク等）の品質は、日本工業規格品または同等品とする。なお、甲が銘柄、品質等を指定した場合はこれに従うこと。
- (4) 乙は、用具、消耗品、被服を不足なく現場に供給しなければならない。特に、消耗品については品目、銘柄、使用数量等を管理するための帳簿を備え、甲の請求があったときには、速やかに提出すること。
- (5) 甲指定の業者と感染性廃棄物用の段ボールの管理、発注を行うこと。段ボールの料金については甲の負担とする。

12 業務の引継ぎ

各エリアの清掃時間帯や清掃方法等について、前受注者から引継ぎを受けること。

なお、契約締結日から令和4年10月1日までの間は、受注者が前受注者から業務の引継ぎを受ける期間とし、この期間中は委託料支払いの対象外とする。

また、契約期間終了時には、次期受注者が円滑に業務を行えるよう責任を持って引継ぎを行うこと。

13 その他

- (1) 指定された電源コンセント以外は使用しないこと。
- (2) 本仕様書に疑義ある場合は、甲の指示するところによる。

作 業 要 領

1 使用用具

- (1) モップや雑布は、ほこりの出にくい滅菌済みの物を用いる。
- (2) 洗剤用、消毒用等用途別に専用のモップ等を用意する。
- (3) 作業効率の向上が図れるディスポーザブルのウェスやクロスを模索する。
- (4) 夜間・休日用に予備の用具を常備する。

2 床面清掃

- (1) モップ、クロス、クリーンルーム専用掃除機等を用いて除塵する。
- (2) 除塵の際は、ほこりをたてないように注意する。
- (3) 床の目に見える汚れは、確実に除去する。
- (4) 洗浄には中性又はアルカリ性洗剤を用いる。
- (5) 消毒剤は0.2%第四級アンモニウム塩、又は0.2%両性界面活性剤、0.05～0.5%次亜塩素酸ナトリウムを用いる。又は、EPA又はDIN認証の床用洗浄消毒剤を用いる。
- (6) 清掃後、床は乾いた状態にする。
- (7) 清拭は、一方向に拭き切り、モップや雑布を往復させないようにする。
- (8) 清拭は、風上より風下に向かって、又は部屋の奥から出入り口の方へ向かって行う。
- (9) モップには消毒液を十分含ませて清拭する。
- (10) 手術台、无影灯等を清拭する際には、ディスポーザブル手袋を着け、布に消毒液を十分に浸し、軽く絞って清拭する。

3 塵芥等の処理

- (1) ポリ袋の回収を行い、清潔なポリ袋を取り付ける。
- (2) ポリ袋は、廃棄物別に色分けされているため、取り付ける際は注意する。

4 その他

その他作業は、別紙「病院清掃基準」による。

作業基準表（１）

清掃区分		清掃の内容	実施回数	備考
日常 清掃	床清掃	<ul style="list-style-type: none"> ・床面除塵清拭消毒 ・機器材類（手術台、足台、作業台無影灯等）の清拭消毒 ・ドアノブ等汚れた箇所、手の触れる場所の清拭消毒 ・ドア面や手の届く範囲内での壁面清拭消毒 ・薬品庫、器材庫、保冷库等の外面清拭消毒 ・室内の窓枠、備品、棚等の除塵清拭消毒 		<p>手術室の壁面は土曜日に清拭消毒する</p> <p>肩より高い箇所(手の届かない範囲)についても週１回清拭消毒する</p>
		清掃場所 <ul style="list-style-type: none"> ・手術部門 ・中央材料部門 ・病棟部門 (PICU、HCU、NICU、GCU、無菌病棟) ・外来部門（レーザー治療室） ・栄養部門（調乳室） ・薬剤部門 ・救急部門（初療室） ・検査部門（細菌室他2室） ・放射線部門（アンギオ室） 	週６回 週６回 毎日 週６回 毎日 毎日 毎日 週５回 週５回	
	塵芥等の処理	<ul style="list-style-type: none"> ・塵芥、厨芥、汚物、危険物等を区分けして指定場所へ搬出する ・くずかごの清拭消毒 ・ポリ袋の交換 	毎日	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・シャワー式の水栓は、シャワーヘッドを分解洗浄する 	月１回	